

全佛通信

七月号
発行所 全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ木(本願寺内)
電話 二九六九
〇八六六
〇三六三
振替 東京三六〇〇
発行人 阿部寛佐
編集者 伊東聖純
印刷所 ルンビニ社
一部 二〇円

長野大会に望む

栗本俊道

十三年前日本仏教発祥の霊地高山で第一回を開いた全日本仏教徒会議は、ことしその第十三回大



栗本俊道師

会が信濃善光寺、庶民仏教の霊場大衆信仰の仏都である長野市で催される。日本仏教徒として早くから待望していた会場である。長野県仏教会の半載余の準備と、仏教大衆運動の新展開への意欲は、八月十八、九両日立派な成果をもたらすものと期待される次第である。と同時に大会の趣旨にある通り、仏教徒が大団結して真の平和と人類福祉のための原動力となつて、当面する幾多の諸問題にい

かに対処するかの具体的な討議考究を遂げなければならない。殊に、今までの十二回の会議を欠かさずなんらかの役職で関係して来た私としては、過去の実績を顧みて感懐ひとしをものあり、痛烈な反省に基づく、仏教徒としての今度こそはの大きな希望を抱く一人でもある。昨年静岡大会で盛りあげられた仏教運動の具体化がその一である。そして年一回の全仏教徒会議を仏教興隆の一大転機とすることがその二である。檀信徒教化関係の部会を更らせ、仏婦仏青の活動を重点に、文化運動や国際問題に仏教の役割を果たすために、日本仏教人口の組織化運動資源の財政基盤の確立強化に参加者の衆智をあつめ、全仏はその機関として盛りあげる底力と根性を浸透させねばならないからである。

拘束力はないものではあるが、当局者は卒直にその要望を受け容れ、それそれ機関にはかり積極的に具体化することに忠実でありたい。それが全仏の組織拡充の発展策となり、全仏への建設的批判の解決策ともなるからである。従つて、今度の長野大会参加者は真剣に現段階における日本仏教興隆に適切な討議を行ない、仏教者にふさわしくない逸脱した戯論や実行も出来ない事項を決議することなく、議案審査の取扱いに慎重を期して、提案者も部会員も、本大会をして有終の美を飾ることを希望するものである。

(著者は元全仏総務局長、現組織専門委員長)

(なお長野大会参加希望者は、全仏組織局あてにお早目にお申込み下さい。)

全国戦没者慰霊法要

全仏主催で七月三日

総持寺で開催

全仏では日本遺族会の後援のもとに、七月三日午後二時から、世界平和を祈願して、「終戦二十周年全国戦没者追悼大法要」を、横浜市鶴見の大本山総持寺において岩本勝俊同寺副貫首の大導師のもと開催することになった。全仏高階会長も出席して弔辞をのべる。なお法要終了後、全仏顧問、元東大教授長井真琴博士が、追悼講演を行なう。当日は全国から戦没者遺家族、昭和同願会々員、一般仏教徒多数が参集する。

印度仏跡を巡拝しましょう

- 一、期間
 - 第一班、十一月六日(土)出発、十二月三日(金)帰国、
 - 第二班、十一月十三日(土)出発、十二月十日(金)帰国
 - 夫々二十八日間
- 一、旅程
 - タイ、ビルマ、印度、ネパール、セイロン、マレーシヤ、香港、台湾(別紙日程参照)



ブダガヤ大精舎

- 一、費用 金五十五万四千円
 - 一、人員 両班とも二十名迄
 - 一、資格 僧俗男女を問わず、誰方でも自由に参加出来ます。
 - 一、申込 九月末日迄
- 全仏国際局あて、申込用紙は国際局にごさいます。
- 直通電話 (542) 二九六九番
- 主催 全日本仏教会



我々大毎ニュースのスタッフ六名がサイゴン入りして三日目の三月六日、仏教徒の中心である南ベトナム仏教統一教会を訪れた。タクシーの運転手に VIEN HOAD AO(化道院)と紙に書いて渡すの威勢よく走りだす。サイゴンの外れに近く、前方に鉄条網に囲まれた大きなバラックがみえてきた。これがベトナム国寺か。正直な所とまどってしまった。市内のサロイ寺院始め多くの伽藍は、どれもみな堂々たる構えであるのに、総本山がなぜこんなガランとした、みすほらしい建物なんだろうと思つた。この謎は後日解けたが、度重なる弾圧から仏教徒たちが自衛のためにこの地を選んだのだというところである。門を入って左にプロック造りの事務所、正面にバラック建の本堂(?)、その手前右に僧堂(?)のような小さ目のバラックがある。事務所の新聞室に赴き、全日本仏教会からの紹介状をだして来意を告げる。こちらの英

語は通じない。先方のフランス語は残念ながら解らない。それではと中国語で筆談を試みる。結局ジュエスチニアと知っている限りのフランス語をならべたてて話が通じた。三日後の午後四時に来いということだ。門外に出てタクシーを待つ間に気がついたことは、この国の一般大衆に仏教がいかほど大きなウエイトを占めているかということである。私が手を上げてでも中々止まらないタクシーも、僧侶が手を上げるとビタリと止まる。そればかりではない。僧侶はタクシー代を払うどころか、かえって運転手から喜捨をうけている。俗にいうベトナムには四つの政府があると、すなわち、時の政府、軍部、ベトコン、そして仏教徒がそれぞれ

南ベトナムの寺見て歩き……

大毎ニュース企画課長 栗田 晃

あるといわれる。全人口の七割五分を占める仏教徒、その指導者的存在にある僧侶の隠然たる勢力のほどをここに見たように感じさせられた。

先日の不自由さにこりた私が、通訳を同道して再びベトナム国寺を訪れたら、今度は英語の出来る人が居て、奥の部屋に紹介された。新聞室長ニヤット・ティエーン師は流暢な英語で、歓迎してくれ、戦場だけでなく、一般の生活を必らずフィルムに収め、一般の生活を他国の仏教徒に見せて貰いたい。そしてベトナムの大衆がどのように考え、行動しているか、いかに

真の平和を望んでいるかをぜひ知ってほしいと何度も練りかえし話された。そして私たちに国寺への立ち入り自由のお墨付と、北部の仏教指導者にあてた紹介状を心よく出してくれたのは申すまでもない。

三月十二日から約二週間、カメランをふれて私は十七度線、第二の都会、ユエ、そして基地の町ダナンを訪れた。ユエの町で地区の仏教指導者、ドン・ハウ師を訪れた際、寺の境内いっばいに飾りつけがしてある。師にお伺がいしたら、貴方々は仏縁に恵まれている。今日これから、焼身自殺をした仏さまの供養の法要があるので、す。というお話。願ってもないチャンスに取材したいと申し出たら



即座に快諾され、世話がかりとして英語の出来る檀徒をつけてくれるという行き届いたお世話に、お熱心な信者の私は本当に恐縮してしまいました。あまつさえ、高僧や信徒の重だつた方ばかりの席に招かれ、お斉を招ばれ、席上、この二人の日本人は真摯な仏教徒でありベトナムのすべてを取材に来られたジャーナリストであると紹介されるにいたっては古い表現ではあるが、正に冷汗三斗という所である。

法要は午後六時から真夜中まで続いた。仏事そのものは一寸表現出来ぬほどに強烈なものである。

ドラ、太鼓、鐘、胡弓、笛のコーラスと大ぜいの僧侶の読経は、私を知る限りの国内の法要とはおおよそ異なるものであり、凄まじいばかりの音の洪水であった。この夜私たちの取材のため、多数のポイスカウトが群衆整理に当たってくれたが、みていて気持ちの良いほどキビキビした動作、そしてリーダーの僧侶の命令に即座にしたがうその姿は、仏前にぬかづく三・四才の幼児の姿とともに忘れ得ぬ思い出の一つである。ちなみにベトナムのポイスカウト、ガールスカウトのほとんどが仏教を背景としており、寺院、そして僧侶に密接なつながりを持っていく。

ユエの市を外れた所にある古寺チュニサン寺を訪ねた際、お名前前は失念したが老僧と筆談を小一時間におわたつて交した。老師は日本とベトナムは同じ大乘仏教の国、ベトナムの統一教会にも多くの派があるが、日本はどうかと聞かれ

た。日本には数多くの宗派があり本尊も釈迦牟尼仏、阿弥陀如来、大日如来と色々ありますと答えたら、しばしば笑いが止まらない様子。そういえばベトナムでは、お釈迦様と阿弥陀如来の像しか見ないことに気がついた。

ベトナム統一教会は過激派、中道派、隠健派と別れており、若干の内部抗争があるという。しかし目的とする所は共産主義打倒と、戦斗の終結、そして平和の樹立であり、その方法論が違っただけだと、私の会った仏教関係者のほとんどが話している。残念ながら通訳を通じての会話が多いため、十分にその意をくめたとは思えない。しかし時の政府を動かすほどの力を持った仏教徒のほとんどが銃声の聞えぬ、美しい平和なベトナムに早く戻ってほしいと願っていることは間違いない事実である。南ベトナムの仏教徒は日本の仏教関係者の理解と支援を心の底から期待している今日このごろである。

近日中に再開か

日韓両仏教徒の交流

懸案となっていた韓国訪問日本仏教代表団について、その後在京城市の大韓仏教曹溪宗側との交信を重ねていた全仏国際局では近い将来、出来れば今秋にでも相互の交流の道が開かれるだろうと語っている。

全仏通信八月号は都合で休刊させていただきます。

(編集子)

故ネール首相

一周年追憶講演会開く

中村博士らが熱弁ふるう

故ネール印度首相の命日にあたる五月二十七日の午後六時から、東京新宿の安田生命ホールにおいて、全仏、日印協会の共催により盛大なる「ネール首相追憶記念講演会」が開催された。

当夜は日中の豪雨もピタリと止み、新装成ったホールには、日印文化協会、全仏をはじめ一般人など二百五十名が席をうめ、柳全仏部長の司会により開幕された。

祭壇には全紙大の故ネール首相の写真額がかざられ、その上に仏旗を中心に左に印度、右に日本国旗がたれ下がり、米、ソ、タイ、セイロン、マレーシヤ、印度、英インドネシヤ各駐日大使館、東都知事、日本山妙法寺、日本仏教顕仰会、日印協会、日印文化協会、全仏等から贈られた花束でうづまり、正六時に主催者を代表して全仏中山国際局長が挨拶をなし、ついで一同合掌して、アジアの生んだ偉大なる平和の土の冥福を祈った。終つて全仏高階会長が大導師となつて三篇依文、般若心経一卷を誦誦、印度大使代理レイチャウリ一等書記官、セイロン代理大使クレシヤム氏、ら来賓の焼香に移った。

大文学部長)より、「ネール首相の思想」、高良とみ女史(前参院議員)より「平和の推進者ネール首相」、最後に、那須皓氏(前駐印大使)から「ネール首相のおもいで」について夫々三十分づつ記念講演がなされ、午後八時三十分から日印協会を代表して高岡大助氏から閉会の挨拶がなされ散会となった。



故ネール首相追憶講演会のもよう

なお、講演に先立ってレイチャウリ一等書記官から三十分ほどに亘る追憶のことがあり、ついで追憶講演に移った。まづ中村元博士(東

デンマーク国コペンハーゲンの国立博物館主事マーサ・ボワイエ女史が、過般単身来日し、六月九日正午東京全仏来賓室で柳部長ら

デンマークのボワイエ女史

日本仏教実践で来日

と面談した。同女史は東洋文化の研究者で哲

勝田事務官、柳、阿部両部長らが同女史と共に横浜市鶴見の大本山総持寺を訪れ懇談の結果、一ヶ月ほど新装成った総持寺会館に宿泊し、霊水と同じ修行をつむことになった。なおボワイエ女史は向う十一ヶ月間日本に滞在する。

南ベトナム万行大学長

釈明珠師来日

日本仏教大学との友好を強張

南ベトナム、サイゴンに新設された万行大学(ヴァン・ハン大学)学長であるティック・ミン・チャウ(釈明珠師)が、六月十日夜ひよつこり来日した。

今回の来日は米国務省からの招きで、その途次東京へ立寄つたのであるが、全仏では同十一日に、立正、大正、駒沢大学等を紹介し同師は熱心に仏教々育事情の視察をなした。

全仏では同十一日午後五時から東京築地本願寺に同師を招き、歓迎晩餐会を開催した。席上明珠師は、「念願の日本訪問が出来て感激しております。サイゴンにある私の大学(ヴァン・ハン大学)は昨年十月十七日に落成したばかりで、現在は人文科学と仏教の両科のみで生徒は五百人ですが、将来は社会福祉科を設ける予定であります。祖国は不幸にも内乱で憂慮にたえず、特に日本仏教徒には種々と御心配をおかけして申し訳ないと思っております。

私はいかなる圧力をかけてもべ

トナム仏教は亡びないことを確信しており、ベトナムから仏教が無くなつたとき、祖国は亡びると云えましよう。私はヴァン・ハン大学に学ぶ学生達に仏教を教えています。すべて奉仕でやっております。しかし生活費等はサイゴン大学等で教授しているの、心配いりません。私は日本の代表的仏教大学を視察して、私の大学と比較したとき、すべての面で遅れをとっていることを痛感しております。どうか今後は教授の交換をしたりして親密度を深め、姉妹大学としてよろしく御指導頂き度くお願い致します」なお当日は先般来日したる、香港米國総領事リチャード・ガード氏も出席し挨拶をなし、和気あいあいの中に午後七時半に散会した。出席者は、釈明珠師、満寛師、マンダラ尼、リチャード・A・ガード閣下、山田霊林師、石坂晃一氏、増永靈鳳氏、久保田正文氏、西村輝成氏、小谷徳水氏、中山、岩野局長、近藤、柳部長、古宇田、鎌田主事等。

全仏高階会長ら南米へ

リオ四百年祭祝典へ

ブラジルのリオデジャネイロ市では本年は同市設立の四百年目にあたるので、盛大な各種の催しを行なつて来ているが、日伯仏教各宗連合会(新宮良範会長)からの程全仏へ招請状がとどき、日本仏教代表の派遣方を申越して来た。

全仏では直ちに理事会に諮り、全仏会長高階瓊仙禪師、同常務理事金剛秀一師、高階禪師待者として佐瀬淳光師の三名を派遣することに決定した。一行は九月に出発した。

大谷派宗議会在

南ベトナム問題で決議

真宗大谷派宗議会議(宇都宮観道議長)では、六月九日開催の宗議会議において「南ベトナム問題」について審議の結果、南ベトナムにおける戦争が一日も早く終熄し、第三次世界大戦の危機が解消され更に世界平和がとりもどされるよう日本仏教徒として努力することを決議し、直ちにその旨全仏へ報告券々要請して来た。

大本山善光寺で執行

海外日系人物故者追悼法要

毎年好評を博しているNHK主催、全仏協賛による「海外日系人物故者追悼盂蘭盆会法要」の国際放送は、本年は長野の善光寺が会場と決し、七月十五日に同寺に於て同法要が執行され、実況放送が遠く中南米、北米西部、南米、ハワイ等へ向けに行なわれる。

第2回 印度 仏 跡 巡 拝 各国訪問日本仏教代表团日程表

(A班 11. 6. ~ 12. 3)
(B班 11. 13. ~ 12. 10)

日次	曜日	都市名	発着時間	航空会社	摘 要	日次	曜日	都市名	発着時間	航空会社	摘 要
1	土	東京発 バンコック着	11:30 17:20	A I 115	新鋭ジェット機にて空路バンコックへ ホテル到着(ラマ・ホテル)	14	金	アグラ発	17:10	I C 450	午前:アグラ市内視察 アグラ城, タジマハール視察 午後:ファテプールシクリ 城視察 (メイデエンス・ホテル)
2	日	バンコック滞			早朝フローティング・マーケット視察, 寺院参拝 ワットアルン, ワットポー, ワットベンチャマ・ポビット 午後;自由行動 (ラマ・ホテル)	15	土	デリー発 ジャイプー ル着	08:00 09:00	I C 449	ジャイプー到着 バスにて市内視察 アハラジヤ宮殿, ハワマハール, ラム・ニーバス公園 等、午後3時空港へ デリー到着, ホテルへ (メイデエンス・ホテル)
3	月	バンコック発 ラングーン着	13:40 14:45	U B 266	午前中WFB本部訪問, 午後2時ホテル出発, 空路ラングーンへ, 到着後ホテルへ(ストランド・ホテル)	16	日	デリー発 バンナ ンナ着	06:15 08:30 16:30 18:40	I C 447 I C 448	早朝バンナへ特別バスで チャンドラ王時代の寺院参拝 空路デリーへ (メイデエンス・ホテル)
4	火	ラングーン発 カルカッタ着	07:00 09:05	U B 211	早朝市内視察 ビルマ仏教会訪問 シュイダゴン, バゴダ及びスーレ, バゴダ参拝 午後;1時30分ホテル 発空路カルカッタへ (グランド・ホテル)	17	月	デリー発 ボンベイ着	09:00 10:55	I C 182	早朝空路ボンベイへ 特別バスにて市内郊外視察 大菩提会支部訪問
5	水	カルカッタ滞			特別バスにて市内視察, インド大菩提会本部訪問, 自由行動(グランド・ホテル)	18	火	ボンベイ発 オーランガ バット着	07:20 08:40	I C 121	空路オーランガバッドへ 到着後ホテルへその後ア ジャンタの石くつ視察(オー ランガバット・ホテル)
6	木	カルカッタ発 バトナ着	07:00 08:35	I C 412	早朝空路バトナへ ホテル到着, 休息 その後ナーランダ大学跡見 学, 王舎城, 霊鷲山登頂, 仏跡参拝ホテル着 (ホテル・リパブリック)	19	水	オーランガ バッド発 ボンベイ着	13:20 14:40	I C 122	早朝エロラーの遺跡視察 午後:空路ボンベイへ ホテル到着後自由行動 (エア・ライズホテル)
7	金	バトナ発 ガヤ経由 ブタガヤ着		特別バス	特別バスにてガヤ経由 成道の地ブタガヤへ 仏跡の一つブダガヤの大塔 参拝後尼蓮河視察 (レスト・ハウス)	20	木	ボンベイ発 マドラス着	11:40 13:25	I C 171	空路マドラスへ, ホテル到 着後自由行動, 特別バスに て市内視察, 政府官庁, セ ントトーマス寺院等視察, (オーシヤニック・ホテル)
8	土	ブタガヤ発 ベナレス着	06:15 11:25	DOON EXPR ESS	早朝列車にてベナレスへ 午後;特別バスにて市内視 察及び四大仏跡の一つ初転 法輪の地サルナート仏跡参 拝ホテル泊 (ホテル・クラークス)	21	金	マドラス発 コロンボ着	17:45 19:40	A E 208	特別バスにてパラバ王時代 の寺院町, マハバリプー ラム訪問, 午後3時空港へ 空路セイロンへ (トプロバン・ホテル)
9	日	ベナレス発 ゴラクプ ール着	10:10 19:15	74 P A S 31 K A N P U R E X P R E S S	早朝ガンジス河畔の舟遊び 風景及び黄金寺院参拝 バトニー経由にてゴラクプ ールへ ゴラクプール到着 レストハウス泊	22	土	コロンボ滞			早朝特別バスにてキャンデ ーへ, 仏歯寺, ベラデニヤ 植物園, ホテル帰着(トブ ロバンホテル)
10	月	ゴラクプ ール滞			早朝特別バスにて積尊降誕 の地ルンビニー園へ ゴラクプール帰着 レストハウス泊	23	日	コロンボ発 シンガポ ール着	13:50 20:00	B A 722	午前中市内視察, シナモン 公園, キャンベル公園, カナヤ寺院参拝, 昼食後空 港へ, 空路シンガポールへ (ホテルシンガプーラー)
11	火	ゴラクプ ール発 バルラン プール着	15:50 22:14	185 P A S S	早朝特別バスにて四大仏軍 の一つ積か入滅の地クシナ ガラ参拝, その後列車にて バルランプールへ レストハウス泊	24	月	シンガポ ール滞			特別バスにて市内視察 午後:自由行動(ホテル・ シンガプーラー)
12	水	バルラン プール発 ゴラク プール着 " 発	13:25 19:55 23:30	186 P A S S 33 J A N A T A F A S T	早朝特別バスにてサヘト, マヘト祇園精舎及び舎衛城 参拝 昼食後列車にてラクノーへ 車中泊	25	火	シンガポ ール発 香 港 着	07:30 13:50	M L 654	空路香港へ, ホテル到着, 休息, 自由行動, 中国舞踊 見物, 晩餐会(パーク・ホ テル)
13	木	ラクノー着 ラクノー発 アグラ着	08:10 17:10 18:05	I C 450	ラクノー到着後休息 特別バスにて市内視察 バラ・イマンバラ及びハッ サンパード, イマンバラ マーティニア大学等視察 空路アグラへ (ホテル・クラークシラー)	26	水	香 港 滞			午前中自由行動, 午後:香 港島一周, アバデーンに て夕食, その後ビクトリヤ ピークより夜景観賞, ホテ ル帰着(パーク・ホテル)
						27	木	香 港 発 台 北 着	08:30 09:45	C X 561	ホテル到着, 休息(オリ エントホテル)午後市内視察
						28	金	台 北 発 東 京 着	13:50 18:24	N W 8	午前:中国仏教会訪問 午後1時ホテル出発 空路帰国の途へ

○費用 55万4千円分割納入も可。
○参加 どなたでも参加出来ます。全仏国際局へ申込
み下さい。

南ベトナムにおけるアメリカの政策について、米極東担当国務次官補の、ウィリアム・P・ペンディ氏が、五月二十日米パークレーのカリフォルニア大学教職員討論会で演説した全文を次のとおり掲載する。

この冒頭演説では、南ベトナムにおける現在の情勢には触れない。それよりも私は、南ベトナムにおける米国の政策を、より広いもつと根本的な視野においてながめてみたいと思う。なぜなら、これらの政策は、われわれが世界の「国家として追求している目的や理想われわれがアジアで演じようとしている役割、そして最後にはベトナム自身の特有の歴史を反映し、またそれらに基づいているからである。

一、われわれの中心目的

三年前この大学で、ケネディ大統領はわれわれの中心目的を次のような言葉で説明した。

「英知は、長い目で見ることを要求する。そして、長い目で見た場合、われわれは、民族独立革命がわれわれの時代の基本的事実であることを悟るのである。この革命を停止させることはできない。新しい国々が何世紀も忘れられていた状態から立ち上がるとき、彼らが最初にいだく願望は、自分たちの国家的主体性を確認したいということである。彼らが心の奥底から望んでいることは、国際協力のワタの中であらゆる国が自国の伝統と理想に従って自国の問題を解決できるような世界の実現である。

このような民族独立革命が成功

することは、知識の探究に有益であるばかりでなく、われわれ自身の国家的利益にもなることである。なぜなら、共産主義者は、一枚岩の世界——すべての知識がただ一つの型にはまり、すべての社会がただ一つの典型をめざして進み、すべての問題にはただ一つの解決策しかなく、すべての道がただ一つの目的地に通ずるような世界——という概念に、いっさいのことを基づかせているが、他方、知識の探究は、これと反対の概念——多様性と自決と自由に基づいた世界という理念——にいっさいのことを基づかせているからである。そ

南ベトナムにおける

アメリカの政策

(米 国 務 次 官 補 の 演 説 全 文)

して後者の世界こそ、われわれ米国人が、一国家として、合衆国創建のもととなった諸原則によつて献身を誓っている世界である。」

われわれはこのような世界を求めているのである——また、このようなアジアを求めているのである。一九四一年真珠湾事件がわれわれを戦争に巻きこんだが、にもかかわらず、われわれの根本目的は、たしかに、当時の軍国主義的日本によるアジア征服を阻止し、独立した国々からなる新しいアジアの出現を可能にすることにあった。われわれが一九三六年フィリピンに対し独立を誓約し、予定ど

おり一九四六年に独立を認めただのは、これと同じ見解に基づいていた。また、われわれがインドネシアの独立を支持し、またアジア、アフリカ、広く世界中における植民地的束縛からの解放を支持したのも、同じ見解に基づいていた。

二、アジアにおける

われわれの任務

これと同じ見解が戦争以来ずっと、アジアにおけるわれわれの政策の本筋をなしてきた。

一言でいえば、その政策は、われわれの助力が望まれば、また望まれる通り、自由な国家が果たす二つの任務——いづれにしても

これらの国が直面するであろう手にあまる経済および社会問題に対処するための努力と、外部の干渉から自国の独立と安全をまもるための努力——を支持するため、われわれが必然的にもつていふ大きな力を、アジアにおいて貸すことである。

その政策の二つの部分は切り離すことができない。ジョンソン大統領も述べたように、われわれはわれわれの資源を、病氣と貧乏との戦いに向け、また他国の開発援助に向け、それによつてこれらの国が、われわれが民主主義として知るところの「同意による統治

の安定」を享受できるように望んでいる。これらの国々は、「同意による統治の安定」という場合、もちろんわれわれとは違った方法と制度を見出すかも知れない。しかしこのような、われわれにはるかに魅力のあるこの仕事の部分は、安全保障と外部からの干渉に対し自由を保持するという領域でわれわれが助力しなければ、なしとげることができない。その任務の第二の部分はもちろん、単に軍事的なものばかりでなく、開発の一部分である同じ経済的および社会的要求を含んでいる。

この二重の任務はたやすいものではない。それは、将来もたやすいものではないだろう。侵略を撃退し、韓国民が偉大な経済上の努力をすることができるようになるために、朝鮮では戦争が起こったが、今、真に実を結びはじめている。またフィリピンでフク共産反

乱軍が、マラヤでは共産反乱軍が敗北を喫した。そしていまわれわれは、アジア国民と国連の指導のもとに、ジョンソン大統領が四月七日支持を約束した。現在の経済計画と努力の大幅拡大を実行する方向へ前進できるよう、東南アジアにおける北ベトナムと中共の連合した脅威を撃退しなければならなくなつた。

なぜなら、その根本的な事実はい、米国を除いてアジアにおける勢力均衡はありえないからである。いまなおイデオロギーの熱病の絶頂にある共産政権の支配の下に立つ本土の中国は、単に影響力という意味だけでなく、支配および民族

自決と独立の拒否という意味で、数において劣るアジアの新独立国家に脅威を与えている。それは必ずしも徹底的に、あるいははたどころにというのではない。なぜなら共産指導者は忍耐強いから、また必ずしも通常兵器による攻撃に出るわけではない——これは彼らの目から見てもよい——これは彼らの手を用いて、外部からの、また共産筋からのほんものの激励と支持を得るといふ方法で、確実にそして容赦なく脅威を与えているのである。

そしてこの共産側の中心的努力に、アジアの他の共産諸国、すなわち北ベトナムと北朝鮮は進んで協力している。彼らはそれぞれ国民性をもっており、真の衛星国ではない——実際、心の底では彼らもまた、中共による支配を恐れている。しかし、戦利品が公平に分配されるかぎり、彼らは一つの目標、われわれが求めているのとは反対の目標、すなわち小さな国々への真の国家的独立を奪い、アジアを幾つかの支配地域に分割するという目標に向かって、中共と協力している。

このようなアジアが今後二十五年のうちに出現する可能性は、歴史は確かなことばかりでできてはいない。すべての政策は将来に對するカケである。しかし、そのようなアジアが出現しないとすれば、それは、われわれの理想にとつてのみならず、われわれの最も具体的な国家的利益にとつても極めて大きな違い——おそらく第三次世界大戦が起こるか起こら

ないかの違い——となることを、われわれは認識しなければならぬ。そして、戦後世界の他の地域で——絶望的な情勢に見えた一九四七年のギリシャで、一九四八年から四九年にかけての欧州全域でこれらはほんの二つの例にすぎないが——われわれが直面し、克服した困難を振り返って見て、われわれはわれわれ自身の援助能力に對する自信、とりわけ、われわれが現在支持している、そしてやがて歴史の潮流となるにちがいない民族感情の偉大な潮流に對する自信を決して失わないようにしようではないか。

三、ベトナム情勢

ところでみなさんのうちには、これらの事がアジアで危機にひんしているという見方や、これが世界歴史の現段階で米國が演ずべき役割であるという見方に同意しない向きがあるかもしれない。それならば、そうした基礎の上に立つて討議し、もしもわれわれがそうした役割を果さなかつたとした場合の結果はどうかを見てみよう。

みなさんのうちにはまた、焦点の狭い見解をとり、これまで私が述べてきたことに基本的には同感だが、南ベトナムは私が描いたワタに当てはまる明確な事例ではないと考えている人もいるかもしれない。そこで、もし、われわれが南ベトナムで現在とつていっているような行動をとつていなかつたとするならば、他にどういふ道があつたかというのを常に心に留めながら、再びいつしよに、できるだけ精密に事実を見てみよう。

アの最近の歴史のごく特殊の一部分がもたらした結果だからである。真の民族運動が共産主義指導者に乗つ取られて、共産主義國北ベトナムへと変形させられるといつた事例が起きたのは、ベトナムだけであつた。そのために、フランスは、英國がインド、パキスタン、マレーシアなどで賢明にも行なつたように、自治を漸進的に認めたり、そのためのできるだけの準備をする代りに、一九五四年巧みに、ベトナムから追い出され、ベトナムは分割された。

南ベトナムを支配する政府は一九五四年すでに独立國家だつた。ゴ・ジンジエムは一九五五年の選挙でバオダイを敗つたさい、國名をベトナム共和國と改称したが、事實上世界中のすべての主要非共産主義諸國を含む三十五カ國がほとんど即時共同共和國を承認した。これはもつと根本的に重要なことだが、独立後最初の二年間に南ベトナムは國家としての基礎を確立していることを実証した。當時同國が直面していたもろもろの困難からみて、おそらくこれは、一九五六年著名な國際問題研究家がその論說の中で述べたように「奇軍」といつてよいだろう。とにかくそれは事實であつた。同國は統一されてきたが、それはわれわれの記憶に新しい少なくとも一つの歐洲の大国を含む非常に多くの國の場合もそうであつたように、必ずしもある一時期の特定の自國政府に對する忠認心によるものではなくて、むしろ強い地域的感情と政權による共産主義支配に對する

反対からであつた。右の著名な學者の言葉を注釈的に引用するならば、一九五六年までに中共と北ベトナムは、それと裏腹のあらゆる宣伝にもかかわらず、自由統一選挙で南ベトナムを失なう危険を冒す氣持がまったくなくなつたし、またおそらくこれは最も重要なことだが、自由選挙のための条件が北ベトナムでも、南ベトナムでも整つていなかつた。そこで予定の選挙期日は過ぎ、両ベトナム間の境界線はドイツや朝鮮の場合同様の政治的境界線となり、再統一は將來へと持ち越された。そして、そのうちに新たに三十余カ國が南ベトナムを承認し、今日も承認している。

(なお私が挙げてきた著名な學者はハンス・J・モーゲンソー教授で、その論說は一九五六年に出版された「米國がベトナムでもつ利害關係」と題するパンフレットの中に書いたものであつた。同パンフレットへの他の寄稿者の一人は、當時のマサチューセツツ州出身若手上院議員で、彼は同教授よりもいささか率直に「米國も自由ベトナムも、明らかに事前工作を施され、腐敗した選挙に加わる氣持はない」と論じている。)

一九五六年以来、二つの異なる要素が南ベトナムの事態を支配してきた。一つは純民族主義的な國內の政治的動亂で、南ベトナム人自身が自國の永続的な政治基盤を求めていたのだが、ここでは他の新興諸國が当面してきたのと同じ問題に当面しており、そのような問題が植民地時代の遺産である訓練ならびに分割支配技術の不足

によつて複雑化されている。こうした動亂はわれわれを驚かすことはない。ほとんどすべての新興國——例えば韓国やパキスタンがこれを經驗してきた。ゴ・ジンジエム政權下では、多数の勝れた南ベトナム人が追放または投獄された。一九六二年から本年始めまでに同國の防衛力はこのため著しく弱められた。そして現在では、ゴジンジエムの眞の反対者であつた人々、そしていま南ベトナム民族主義の眞の聲にある程度近いと思われる人びと——そしてまた彼らはすでに支持層を広めており、地方選挙を施行している——によつて率いられる政府を政權につけるにいたつた。

明らかに、これは楽しい経過でも容易な経過でもなかつた。しかし、要するに、これは私が冒頭に引用した声明の中でケネディ大統領が述べた國家の運命を求めていくことにはなる。

これとは全く違つたもう一つの要素は、破壊的な侵略行為によつて南ベトナムを乗つ取ろうとするハノイの努力である。これについては、事實は明白であり、一九六一年十二月と一九六五年二月に公刊された白書に、概略だとはいへ十分明らかになされている。もしこれらの白書が諸君を納得させないなら、この数年間におけるハノイ自身の宣言や、最近数カ月間に発見された数トンに達する兵器の實地検証記録、ニューヨーク・タイムズ紙日曜版にのせられたシーマートップング氏の、典型的な一ベトナム人としての尋問記事、あるいは最近フランス人のジョルジュ・

シャフアール氏によつて書かれたいわゆる民族解放戦線は他國を乗つ取るために用いられる共産組織の典型的な例だと断定している記事を読まれるがよい。

要するに、北ベトナムは初めから、こう然かつ傍若無人に、ジョンソン大統領の言葉をかりれば、ベトナムの脈博だつたのである。ギリシヤでと同じに、ゴ・ジンジエム一部宣伝を用い、またゴ・ジンジエムおよびその後継者の明白な弱点につけこみつつ、だが根本的には民間人を大々的に威かくする戦術にたよつつつ、同國の広域を支配下におくりにいたつた。この数年間民間人の死傷率——計画的な行動による死傷で、殺された者、負傷した者、誘かされた者——は南ベトナムで一日約四十人にのぼつてゐる。特に文民が彼らの目標となつてゐるが、これは行政組織をまひさせるのがねらいであることは明らかである。

しかし、恐ろしい圧迫に直面しても、ベトナム國民は断固耐え抜いた。國民の中から選ばれた軍隊は、その力をもちこたえ、いまやそれを強化して立派に戦つてゐる。地方の農民はベトナム地域に走る、機會がいくらでもあるにもかかわらず、こうしたことは決してなかつた。これどころか、最近数カ月間に、非常に多数の難民がベトナム地域から、政府の支配する地域へと、家と土地を捨てて脱出してきてゐる。また都市の政治家や宗教指導者たちは、たとえしばしば仲違いをしていても、依然として反共であることに變りなく戦争を支持し、ベトナム側に走る

もはたいしていいない。
 そうだとすれば、われわれは、これを侵略でなくでなんと呼ぶべきであるのか。ベトナムと呼ぶ味で反革命で、力によって外部の制度を押しつけるものではなくして、真の民族革命だといふべきであるのか。また南ベトナムが抗議と変革を認める体制のなかに、重大な政治的諸問題と欠陥を持って、われわれは南ベトナムが抗議も変革も許さない政治体制に落ちこむことを黙認すべきであると主張すべきであるのか。

私はそうは思わない。重要なことは、南ベトナムは自衛のために行動しているということ、米国と南ベトナムを援助している他の三十余カ国は正義に従って、またわれわれ自身の至高の原則に基づいて行動しているということである。ここで私は手段の選択の問題にふれる。一九六一年まで、アイゼンハワー、ケネディ両大統領ともわれわれの援助を、ジュネーブ協定の条項に基づき、大規模な経済努力と軍事装備の補給に限定してきた。北からの活動が激化した二年のち、一九六一年末にいたり情勢が重大となったとき、ケネディ大統領は顧問および戦闘をふくまない。他の任務のために、数千の将兵を派遣することを定した。ジョンソン大統領はできる限りの方法でこの努力を強化した。そして本年二月はじめて、南ベトナム人自身の要請によつて、それ以前からずっと正当とされまたあたり得ないことではないとされてきた——ことを行なう。一步進んだ決定、すなわち北ベトナムそのもの

に對し慎重に目標を選び時機をねらつて爆撃を行ない、しかも南ベトナム人だけがベトナムで勝ちとすることのできるこの戦闘において南を援助するためできる限りの努力を合せて行なうという決定を下した。

これらはどれ一つとして簡易な措置でもなければ、危険を伴わないでもない。すべての措置が、ハノイその他の何処をも脅迫するために執られたのではない、侵略の勢いが次第に高まった上で執られたのである。戦争の意味するものを、直接知り、決時に忍耐強い決意と確固たる態度が、平和への唯一の道となりうることを、そして行動を起こさなければ、それだけの危険はまたそれ以上の危険となることを知っている者によって、執られたのである。

もちろん究極的には政治的解決以外にはありえないであろう。同様に、この二、三年、特にこの二カ月間の成行きを慎重に観察していた向きで、ハノイが今のところハノイの共産主義者の乗っ取りという条件以外の政治的解決に必ず用意があると考へうる者はない。しかしわれわれとしては、前提条件なしの話し合いは、前もって話し合ひ、あるいは一連の行動を通じてのわれわれの目的は、南ベトナムが平和手段で北との関係を打立てる権利を含めて、外部からの干渉なしに自国の将来を決定する自由を断固として守ることにあることは、われわれは明らかにして来た。われわれはそれ以上のことを求めていないし、それが

達成された暁には米軍を撤退させるであろう。しかしそれ以下のことであれば、共産制特に中共に対して、外部からの破壊という手段を正当化するものになり——東南アジアのそれ以外の国に大きな脅威を高めることになり——少なくとも他の地域における米公約の真価をある程度傷つけることになる——そして——なかならず——各国が自国の運命を打ち立てる権利という基本原則を敗退させることになる。

盛んだった
 インドネシアの
 ウエサカ祭

去る五月十五日インドネシア仏教会主催によるウエサカ祭が、有名な仏跡「ポロドウル」において内外仏教徒三千名を集めて開かれ、日本代表猪俣興一氏(仏青)もこれに参加した。以下は猪俣氏の語った印象記である。

インドネシア仏教会は最近再組



インドネシアのウエサカ祭

織され、会長にはジャワ市助役で陸軍大佐のスマントリ・モハマッド・サレ氏が任命されているが、年一回のこの祭典には全国都々うらうらから大群衆がおしよけ、さまざま広い場所も全たくうづめつくされたと云う。

一般にインドネシアではイスラム教が盛んであるが、仏教徒も年々増えているようで、同仏教会では信徒十万人と称している。がこれはあてにはならない。目下の国情はインフレで何もかも高価で国民は質素な生活をしているが、独立意識が強く、特にスカルノ大統領に對する忠誠は想像以上のようである。軍隊に女子の多いのもこの国の特色と云える。

バリ島などへ行くヒンズー教が盛んで仏教の遺跡も方々で散見されたが、人々は未だ迷信に左右されているようで、仏教布教の余地は多分にあると思えた。

南ベトナム地方選挙
 成功裡に終わる

「サイゴン発」南ベトナム国民は秩序ある自由な選挙で全国各地の省・市町村議會議員を選出した。この選挙は国外ではあまり関心をひかなかったが、南ベトナムの民主主義発展にとって大きな意義をもつものである。

選挙は共産主義ベトナムからの反対にもかかわらず、成功裡に行なわれた。ベトナムは宣伝放送を通じて投票を非難し、一部の地域では有権者に登録カードを破り捨てさせた。また少なくとも一つの場合には、投票所を襲撃し、有権者一人を殺し、もう一人を負傷させた。

五月三十日に施行されたこの選挙についての完全な数字がすでに判明しているが、四百五十万人をわずかに上回る全登録者のうち、三百五十万人近くが投票した。南ベトナムでは満十八歳以上の男女が選挙権を有しており、その総数は七百万人弱と推定されている。

都市や地方の各省で投票状況を視察した外国の外交官や報告関係者は、投票は円滑に行なわれ、有権者に対し圧力や強制を加えた形跡は全く認められなかったと報告している。

地方議會は、政務に對する国民の関与を拡大するための南ベトナム政府の計画から生まれたものである。

一九六五年四月公布された法律によつて、新議會には、以前存在していた地方機關の権限よりもはるかに広範な権限が付与されている。

新議會は、予算、地元土木事業公共施設運営のような重要事項を含む当該省市の行政に関する決定を行なえるように、なる議会の決定を実施するのは地方行政官の任務である。

議會はまた、政府計画の実施、資金の支出、地方公務員の公務の性質に関して調査と勧告を行なう権限の下に、地方行政を監督する権限も与えられている。

当選した四百七十一名の候補者は大部分、各自の地元で人気が尊敬をえている人々で地元で有力者とされている医師、教師、小企業経営者、農民などである。

この地方選挙で最も重要な成果の一つは、南ベトナムではベトナムの脅威やベトナムによる混乱にかかわらず、自由選挙が実施できるといふことが立証されたことである。

長野大会開催要項

井上靖氏が記念講演

(趣旨)

全日本仏教徒会議は十三回を迎え長野に開催されることになった。今や宇宙開発の実現は人類の幸福を招来するや否や、実にその運用にありと痛感されるるの時、東南アジアの一角においては世界戦争の危機をほらむような深刻な様相をみせている。

文明の進歩が一切の不安を解き人類をもろもろの苦悩からはたして解放できるであろうか？ われわれ仏教徒はこの冷厳なる現実を直視し今こそ大同団結して世界の諸宗教と提携し、真の平和と人類福祉のための原動力たらんとするものであるが、当面せるいく多の諸問題にいかに対処するか、具体的な討議考究を遂げんとするものである。

昭和四十年六月一日

財団法人 全日本仏教会

記

期日 8月28日(土)午前八時受付

会場 長野市民会館・善光寺

定員 二、五〇〇名

参加申込

1、参加資格 全日本仏教会加盟団体の推薦者

2、参加費 千円

3、申込切 七月三十一日

4、申込先 東京都中央区築地

(厳守)

3の1(本願寺内)全日本仏教会大会事務局宛
日程 第一日(8月28日)受付八時開会式 午前九時記念講演 十時アトラクション(無形文化財諏訪太鼓) 午前十一時三十分休憩・中食 十二時各部会 午後一時、五時第一部会(全仏組織・文化関係) 於 大本願 第二部会(全仏総務・国際関係) 於 寛慶寺 第三部会(仏婦活動関係) 於 市民会館 第四部会(仏青活動関係) 於 市民会館 第五部会(担信徒教化関係) 於 大勸進

第二日(8月29日)受付八時三十分

総会 午前九時

閉会式 午前十一時三十分

観光出発 午後二時(予定)

宿泊① 宿泊費千三百円

② 申込先 長野市善光寺大勸進大会事務局宛

観光①Aコース

善光寺遊覧、戸隠飯綱高原

観光とリンゴ狩り

所用時間 三時間

料金 七百円

△(行程)

善光寺—雲上殿(参拝)

—雲上台駅—ロープウェイ

—地附山頂—(有料道路)

—戸隠飯綱高原(大座法師

池、一の鳥居)—雲上殿—

(遊覧)—往生地リンゴ狩

り—長野駅(散会)

Bコース

善光寺遊覧と上山田温泉い

で湯の旅、

料金二千五百円(泊二食)

△(行程)

善光寺—雲上殿(参拝)—

(遊覧)—上山田温泉泊(

一級旅館)

Cコース

志賀高原観光と渋温泉いで

湯の旅

料金三千円(泊二食)

△(行程)

善光寺—志賀高原観光(丸

池)—渋温泉泊

② 宿泊、観光の申込先

長野市善光寺大勸進

大会事務局宛

電話02622(2)2162

(なお詳細については全仏組織

局へお問合せ下さい。)

電話0313)

△(行程)

善光寺—雲上殿(参拝)—

(遊覧)—上山田温泉泊(

一級旅館)

Cコース

志賀高原観光と渋温泉いで

湯の旅

料金三千円(泊二食)

△(行程)

善光寺—志賀高原観光(丸

池)—渋温泉泊

② 宿泊、観光の申込先

長野市善光寺大勸進

講習会、グループ活動の会場は

心のふるさと薬王院に

一、会場周・会場である高尾山薬王院は、交通至便(新宿発国電で四十五分高尾駅下車バス七分)に通じて、秩父山系の南端「東京都立自然公園」の中心に立し、秩父六〇三米、金山巒着たる大原始林(植物一〇五〇種)に覆われ、渓谷は極めて深く、岩石多きをもつて、清流いたるところ滝泉(琵琶・蛇滝の両水行道場)を呈し、特に夏は涼風に恵れた静かな山で、しかも「混虫、鳥獣の保護地区」(混虫四、〇〇〇種、野獣は候鳥を含め一〇〇種)に指定された一大仙境であります。

山頂大見晴台に立てば、関東の平野と主要都市の全貌も俯瞰でき、南は相模丘陵を越えて遠く夢の江の島を望み、西は大山、丹沢の遠峰を収めて、右に秀麗富士を仰ぎ、北は紫紺の秩父連山をひかえ、その素晴らしい展望は、雄大にして壯麗、私達の胸を打つ感動は筆舌に尽しきれないものがあります。

春の高尾—若芽・若葉の樹海的美・薫風

夏の高尾—鮮緑の樹蔭・涼風・夜景の美

秋の高尾—紅葉・名月の美・邯鄲

冬の高尾—疎林・寒月の芽え・雪の美

二、会場内・会場は、人員により大客殿、その他客室を当て、机・黒板・マイクなど準備し五人より最大一三〇人位まで奉仕することが出来ます。

ご希望により法話も致しますので計画して戴ければ幸いに存じます。

三、奉仕料・お食事は、名物の「高尾山精進料理」で一人一泊(三食付)一、三〇〇円位を基準として、その他お飲物は、各位のご希望により取扱います。

会場利用をご希望の方は当院の都合もありますのでお早めにお相談賜り度く、又右のような集会とは別に来山ご希望の方は昼食四五〇円、一泊(二食付)九五〇円で奉仕(料理は高尾山精進料理致して居りますがこれも前もってご連絡下さい。)

東京 都八王子市 高尾町

大東 山 高尾山 薬王院

(電話浅川十五・十七、広報課)

タイ国法王逝去

タイ国法王ソムデック・プラ・アリヤワンサガタヤナ大僧正はかねてより病氣療養中であつたが、ウエサカの日(五月十五日)午前二時二十分に、バンコックの病院で九十一歳の生涯を閉ぢられた。プミポン皇帝は十五日間喪に服すことをお詫びいたします。

前号全仏通信三頁の記事に第七回参議院議員候補者黒木利克氏の推せん宗派中「真言宗大覚寺派」が脱落してました。ここに

とを国民に宣言し、百日以内に火葬の儀がとりおこなわれる。

お詫び

ここに

ここに